

## 北海道からA型事業所の果たす役割について考える

### ～全Aネットのめざすもの～

はじめに

近年悪しき福祉ビジネスとしてのA型事業所の存在が問題視されています。その多くがディーセントワーク（やりがいのある仕事の提供）とは程遠い状態です。昨年2月A型事業の運営基準が改正され、同年3月30日解釈通知が発出されました。生産活動収入から経費を除いたものが賃金総額を上回らなければならないことが明文化され、経営改善計画の提出や改善が見込まれない場合には勧告・取消の命令が発動されることになり、全国の7割のA型事業所が経営改善書を提出しました。A型事業所の健全な運営は喫緊の課題です。今年の秋には2年目の行政の指定基準に関する審査等があります。全Aネットとしましては、今後の状況把握に努めるとともに、A型事業を必要とされている障害者のために健全な運営をめざして努力している事業所を、応援していきたいと考えています。

A型の運営の難しさは、福祉施策における事務業務や相談・精神面のサポートに加え、生産性にハンディをもった障害者に仕事を提供しつつ最低賃金をクリアしなければならないことにあります。日本政府は2014年1月に障害者権利条約に批准しました。インクルーシブでディーセントな障害者就労施策は喫緊の課題であります。合理的配慮が社会一般に根付くまでの間、A型の果たす役割は大きいと考えています。また一億総活躍社会の実現が言われています。今後、障害者総合支援法内でのA型事業の可能性の検討の他に、障害者以外の引きこもりやニートなどを含め、大いなるA型の可能性についても検討していきたいと考えています。

全Aネットでは、今年度、日本財団から平成30年度助成「就労支援A型事業所活性化事業」を受託、全国3都市において「A型フォーラム」を予定しています。今回、第1回目をヤマト福祉財団パワーアップフォーラムとの連携事業として「A型フォーラム in 札幌」を開催し、第2回目を11月10日（土）に熊本市で開催、これは日本財団が主催する12月8日（土）～9日（日）に開催される「就労支援フォーラム NIPPON2018」のサブフォーラムとしての位置づけとなります。第3回目を3月9日（土）はさいたま市で予定しています。地域の現場の皆様による意見交換を行ない、良きA型事業所を増やしていきたいと考えています。また、ヤマト福祉財団の平成30年度助成事業「良きA型事業所拡大のための支援事業」を受託、好事例集の作成と優良事業所の認定事業を計画しています。良きA型事業所を増やす施策に取組みたいと考えています。

最後に、助成をいただいた日本財団に深く感謝申し上げます。また連携事業としてご協力いただいたヤマト福祉財団に感謝申し上げます。さらに開催にあたりご協力いただいた札幌市のA型事業所の皆様に深く感謝申し上げます。

平成30年8月4日

NPO 法人就労継続支援A型事業所全国協議会

(全Aネット)

理事長 久保寺一男